

第31期 (2011年6月期)

第2四半期連結業績説明資料

2011年 2月

株式会社

ドンキホーテ

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 CFO 兼 CCO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

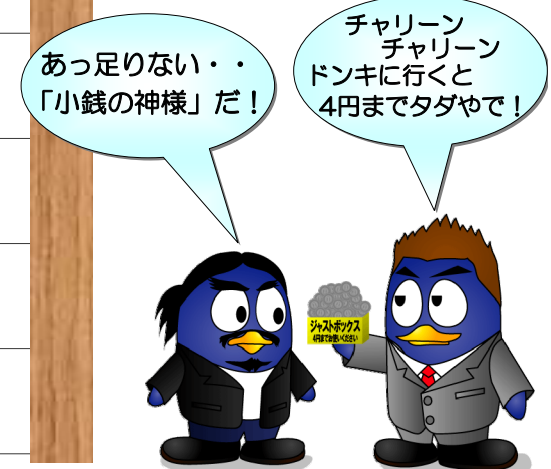
e-mail : takahashi@donki.co.jp

ヒット商品ランキング

2010年7月~12月 ヒット商品番付表



西		東
NEWクレラップレギュラー	横綱	自然のおいしさ大地3.6
マウントレニア カフェラッテカップ 240ml	大関	NEWクレラップレギュラー
ブラックサンダー	関脇	充填豆腐
ネピア ネピネピティッシュ 160組5個パック	小結	エリエールティッシュキュート
情熱価格ラバー歯ブラシふつら	前頭	マウントレニア カフェラッテカップ 240ml
アクエリアス カロリーオフ 20	同	カラー花束トイレットペーパー 18ロール
じゃがりこサラダ	同	雪印コーヒー 1ℓ
スコッティーティッシュ5箱パック	同	綾鷹 2ℓ
コカ・コーラ 1.5ℓ	同	じゃがりこサラダ
コカ・コーラ 500ml	同	パック卵 L



1. 「ヒット商品番付表」は、当2Q累計期間のDQ店における販売数上位商品をランキング化したものであります。その節は、お買い上げいただきありがとうございます。
 2. 東西エリアともにランクインした商品は3種類で、異なる7種類の分析は・・・地域性や嗜好性の違いなのか、それともDQ得意の各店仕入の妙なのか・・・ 1
 Don Quijote Co., Ltd. 2Q results of FY2011.

2011年6月期 2Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓セグメント情報

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓出店状況
- ✓月次販売の状況
- ✓長崎屋復活計画
- ✓連結子会社フィデック
- ✓情熱価格

2011年6月期 通期業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

ドン・キホーテ、営業利益28%増

A B新聞号外

2月4日
金曜日

1Q89
established

**お客さま志向の徹底で
高い顧客支持率を維持**
7~12月期

ドン・キホーテが4日に発表した2010年7月~12月期連結決算は、営業利益が前年同期比27・9%増の142億円、経常利益が29・5%増の140億円、純利益が23・8%増の75億円といずれも大幅増益となり、コンセンサス予想をも上回るポジティブな決算となった。同社が得意とするコストマネジメントと変化対応力が推進される中で、お客さま志向を徹底した多彩な商品構成と絶妙な価格バランスが高い支持率を維持しており、収益拡大に寄与した。

増収増益を達成

デフレ影響による価格競争が残る中で、生活必需品については価格訴求を意識した対応に加え、顧客心理の改善傾向を先取りしたライフスタイル型商品については、提案力を武器に比較的利益率の高い商品やプライベートブランド商品を充実させる販売促進策に努め

たことから、売上高は1.9%増の2555億円となった。

既存店成長に力強さ

主力のドン・キホーテは、お客さまニーズを反映した商品ポートフォリオの組み換えと価格施策の適応性が奏功し、既存店売上高は27%増収と好調を維持した。

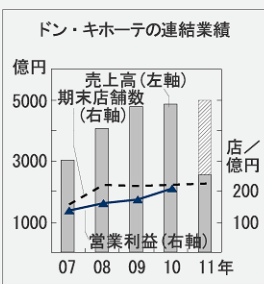
2007年にグループ傘下企業になったドイトは収益性に安定感が増しており、さらに長崎屋は損益が改善し期間損益を黒字化させるなど、今後に期待が持てる展開になってきた。

セグメント別では、リテール事業の売上高は2456億円、セグメント利益は110億円となった。前期に比較して食品販売は抑制したものの、家庭用品や日用雑貨品などが好調を維持。一方でライフスタイル型商品やプライベート商品の販売増が利益を押し上げた。テナント賃貸事業の売上高は79億円、セグメント利益は27億円となった。

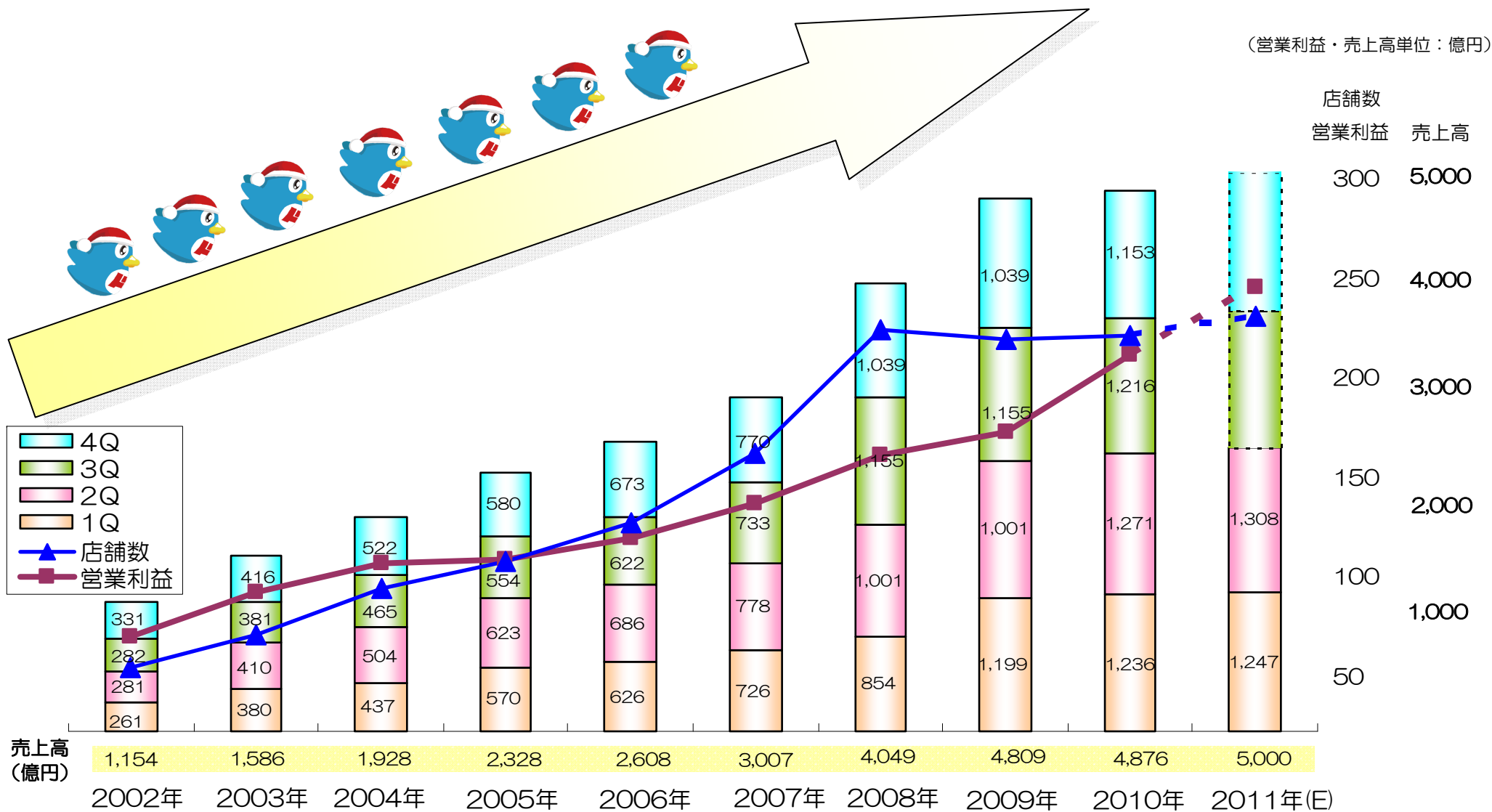
通期予想を 上方修正

通期業績の見直しは、第2四半期累計期間までの進捗状況を踏まえて、売上高については、新店の期ずれ及び閉鎖店舗数の増加要因などで前期比25%増の5000億円(従来予想は5100億円)としたが、営業利益は16・3%増の245億円(同230億円)、経常利益は11・3%増の235億円(同220億円)、純利益は22・1%増の125億円(同116億円)にそれぞれ上方修正し、過去最高益の更新を見込む。ドン・キホーテから目が離せない。

【MT記】



年間業績推移



1. 2Q累計連結業績概況

収益状況の改善が著しく、予想を上回る大幅増益で着地！

- ▶ドン・キホーテ（DQ）グループは、店舗ネットワークを拡大し、営業力を強化する一方で、お客さまに対するきめ細やかな施策と対話を積み重ねて、既存店収益力の改善に注力。
- ▶商品面では、価格訴求品のみには拠らない商品ポートフォリオの組み替えを積極的に推進。さらに景況感の改善傾向を先取りした多彩な品揃えに加え、プライベートブランド商品などの提案が、お客さま支持率の向上に直結。
- ▶DQが実践する「コストマネジメント」の仕組みが、ますます安定感を増してきた中で、お客さまニーズに適応しながら、DQが得意とする比較的利益率の高い商品群の販売シェアを高めたことから、DQ既存店は2.7%増収。
- ▶子会社（リテール事業）については、デフレ影響が残る状況下において、売上高は伸び悩むが、「DQ流オペレーション」が着実に子会社に根付いており、さらにMEGA転換店の収益基盤が確実に強化されるなど、利益の積み上げが進み、各社の利益はいずれも利益予想を上回る状況。
- ▶これらのことから、2Q累計連結業績は、売上高は2,555億円（前期比1.9%増）と微増収ながらも、営業利益142億円（同27.9%増）、経常利益140億円（同29.5%増）及び純利益75億円（同23.8%増）と大幅増益を達成！

2. 業績見通し

通期業績予想（利益）を上方修正！

- ▶2Q累計連結業績の進捗状況を踏まえて通期の業績見通しを修正。
売上高は新店の期ずれ及び店舗閉鎖数を期首予想から増加させるため、前期比2.5%増の5,000億円（前期実績4,876億円）に見直すが、営業利益は16.3%増の245億円（同211億円）、経常利益は11.3%増の235億円（同211億円）、当期純利益は22.1%増の125億円（同102億円）と、それぞれ過去最高益更新を狙う。

3月中に社債発行を予定！

- ▶社債償還資金及び設備投資資金に充当するため、銀行借入金以外に「社債」発行による資金調達を3月中に予定。



2Q累計業績サマリー

(単位：百万円)

連結実績	当2Q実績				公表予想 ※1		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	255,481	100.0%	99.0%	101.9%	258,000	100.0%	250,698	100.0%
売上総利益	65,874	25.8%	102.1%	104.9%	64,500	25.0%	62,805	25.1%
販管費	51,681	20.2%	99.4%	100.0%	52,000	20.2%	51,704	20.6%
営業利益	14,193	5.6%	113.5%	127.9%	12,500	4.8%	11,101	4.4%
経常利益	14,031	5.5%	118.9%	129.5%	11,800	4.6%	10,833	4.3%
当期純利益	7,549	3.0%	123.8%	123.8%	6,100	2.4%	6,100	2.4%
1株利益	102.03円		—	115.9%	79.39円		88.00円	

個別実績	当2Q実績				(参考予想) ※2		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	177,938	100.0%	100.2%	105.2%	177,500	100.0%	169,116	100.0%
売上総利益	44,776	25.2%	101.1%	106.6%	44,300	25.0%	42,024	24.8%
販管費	33,369	18.8%	98.7%	101.1%	33,800	19.0%	33,001	19.5%
営業利益	11,407	6.4%	108.6%	126.4%	10,500	5.9%	9,022	5.3%
経常利益	11,386	6.4%	115.0%	134.8%	9,900	5.6%	8,448	5.0%

※1. 業績予想は、2010年11月4日に利益予想を上方修正したものでありますが、当初予想は同年8月18日に売上高2,580億円、営業利益120億円、経常利益112億円、純利益57億円と公表しておりました。

※2. 当社は、個別業績予想を開示しておりませんが、連結業績予想の前提となる予想（上方修正後）を参考予想として記載しております。

2Q累計連結業績概況コメント

➤ **連結売上高：2,555億円（前期比1.9%増）**

日用雑貨品などのコモディティ商品は価格訴求を行う一方で、ライフスタイル型商品やプライベートブランド商品など、採算性の良い商品の販売促進を強化したことから、DQ既存店は2.7%増と好調に推移。
子会社については、デフレ影響を受けやすい商品シェアが高く、さらに天候不順も苦戦要因として、伸び悩みが続く。

➤ **当2Q末店舗数：226店（前期末220店）**

新規出店9店（うち、DQ4店、MEGA1店、ドイト3店、WR1店〈ただし、WRは11年1月4日付で閉鎖〉）、長崎屋の業態転換は6店、閉鎖3店。

➤ **連結売上総利益：659億円、同率：25.8%（前期比0.7pt改善）**

デフレ影響が残る中で生活必需品は価格訴求をシビアに追求し、一方で中高価格帯商品の充実を図りながら、プライベートブランド商品など粗利益率の高い商品群の販売強化策を実施したことから、売上総利益率は0.7pt改善。

➤ **連結販管費：517億円（同0.0%減）、販管費率：20.2%（同0.4pt改善）**

ドンキ流オペレーションの真骨頂発揮。群を抜く「コストコントロール」力がますます進化。

➤ **営業外収支戻：1.6億円のマイナス**

受取利息2.9億円、負ののれん償却4.3億円/支払利息8.9億円、持分法による投資損失1.7億円など。

➤ **特別損益戻：13.9億円のマイナス**

収用補償金3.8億円/資産除去債務6.8億円、減損損失4.6億円など。

➤ **これらのことから、営業利益142億円（同27.9%増）、経常利益140億円（同29.5%増）、当期純利益75億円（23.8%増）といずれも大幅増益を達成し、2Q累計（中間期）最高益を更新。**

持ってる！



2Q累計連結業績概況

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	255,481	100.0%	250,698	100.0%	101.9%
売上総利益	65,874	25.8%	62,805	25.1%	104.9%
販管費	51,681	20.2%	51,704	20.6%	100.0%
給与手当	17,225	6.8%	17,868	7.1%	96.4%
地代家賃	9,031	3.5%	8,740	3.5%	103.3%
支払手数料	6,137	2.4%	6,109	2.4%	100.5%
減価償却費	4,390	1.7%	4,074	1.6%	107.8%
その他	14,898	5.8%	14,913	5.9%	99.9%
営業利益	14,193	5.6%	11,101	4.4%	127.9%
経常利益	14,031	5.5%	10,833	4.3%	129.5%
当期純利益	7,548	3.0%	6,100	2.4%	123.8%
1株当たり純利益	102.03円		88.00円		115.9%

2Q累計事業別業績概況コメント

➤ リテール事業2,456億円（前期比2.3%増）

* 「家電製品」284億円（同6.6%増）

大型店を中心に中小型家電の販売が純増傾向、さらに政策効果による特需も若干発生。

* 「日用雑貨品」546億円（同6.8%増）

価格訴求品以外の商品も堅実に実績を積み上げており、DQ、MEGA店とも好調持続。

* 「食品」695億円（同0.2%増）

当期は「量」から「質」への調整期としており、抑制方針を堅持。

* 「時計・ファッション用品」561億円（同1.0%減）

DQは4.0%増と嗜好品を中心に回復傾向が見えるが、GMS型衣料品の苦戦で微減収。

* 「スポーツ・レジャー用品」162億円（同10.0%増）

1Qの猛暑効果に続き、2Qの行楽シーズンや年末需要を喚起した上で、支持基盤を拡大。

* 「DIY用品」82億円（同3.7%減）

プロユース商品は堅実な進捗も、天候不順（1Q=多雨・低気温、2Q=猛暑）の悪影響が響き、園芸関連、外装建材、塗料などが不振。

* 「海外（ハワイ）」77億円（同7.3%減）

オリエンタルフードを中心とした「食品」が、お客さまのリピー増につながり、堅調な実績推移。
なお、USドルでみた実質ベースでは0.4%減。（ご参考：当2Q1\$=88.3円、前1Q=94.9円）

➤ テナント賃貸事業79億円（同1.4%減）

一部のテナント事業者の撤退や縮小及びMEGA店展開のための改装工事期間中の営業ロスなど。



2Q累計事業別業績概況

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	245,586	96.1%	240,014	95.7%	102.3%
家電製品	28,415	11.1%	26,650	10.6%	106.6%
日用雑貨品	54,594	21.4%	51,111	20.4%	106.8%
食品	69,545	27.2%	69,387	27.7%	100.2%
時計・ファッション用品	56,143	22.0%	56,727	22.6%	99.0%
スポーツ・レジャー用品	16,162	6.3%	14,698	5.9%	110.0%
DIY用品	8,230	3.2%	8,545	3.4%	96.3%
海外	7,702	3.0%	8,313	3.3%	92.7%
その他商品	4,796	1.9%	4,582	1.8%	104.7%
テナント賃貸事業	7,927	3.1%	8,037	3.2%	98.6%
その他事業	1,968	0.8%	2,646	1.1%	74.4%
合計	255,481	100.0%	250,698	100.0%	101.9%

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。なお、前期実績は当期基準に置き替えたものであります。

主な資産の状況

(単位：百万円)

	10年12月	10年6月	増減額
流動資産	147,703	128,198	19,505
現預金	50,698	41,734	8,964
商品	85,092	74,452	10,640
固定資産	185,253	173,831	11,422
建物等	52,072	49,961	2,111
土地	70,715	64,378	6,337
敷金保証金	33,453	33,674	▲221
資産合計	332,956	302,029	30,927

主な資産の状況

- **総資産：3,330億円**
(前期末比309億円増)
主な増加要因は、MEGA店への業態転換及び販売好調に伴う棚卸資産106億円増、出店に伴う有形固定資産103億円増、現預金90億円増など。
- **現預金：507億円** (同90億円増)
当期における設備投資資金を銀行借入れ及び社債発行により調達したため。
- **商品：851億円** (同106億円増)
好調な販売動向に加え、お客さまニーズに適應した商品を積み増したことによるもの。
- **固定資産：1,853億円**
(同114億円増)
新規出店9店、業態転換6店及び次期以降の出店候補物件などの確保に伴い、有形固定資産103億円増、無形固定資産22億円増など。

主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	10年12月	10年6月	増減額
流動負債	134,342	122,005	12,337
買掛金	55,043	42,670	12,373
短期負債 ^{※1}	54,981	61,664	▲6,683
固定負債	77,622	73,264	4,358
社債等 ^{※2}	36,197	34,201	1,996
長期借入金	24,884	20,379	4,505
負債合計	211,963	195,269	16,694
純資産合計	120,992	106,760	14,232
負債・純資産合計	332,956	302,029	30,927

主な負債・純資産の状況

- 負債合計：2,120億円**
 (前期末比167億円増)
 主な増加要因は、買掛金124億円増、銀行借入金及び社債84億円増など。
 なお、2011年満期転換社債(前期末86億円)は、大半が株式に転換(4,720千株、6.1%相当)したことから、繰上償還実施額は2,500万円。
- 有利子負債：1,161億円**
 (同2億円減、依存率34.9%)
- D/Eレシオ：96.0%** (同12.3pt.減)、
純負債：654億円 (同91億円減)
- 純資産：1,210億円**
 (同142億円増、自己資本比率35.9%)

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債

※2 社債等＝社債、転換社債

2Q累計セグメント情報 (事業別)

セグメント別営業利益は、主力の「リテール事業」は微増収ながらも24.3%増の110億円、「テナント賃貸事業」は減収ながらも21.0%増の27億円といずれも大幅増益を達成！！

当2Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	消去/全社	連結
外部売上高	245,586	7,927	1,968	255,481	—	255,481
内部取引等	—	1,292	490	1,782	▲1,782	—
計	245,586	9,219	2,458	257,263	▲1,782	255,481
営業利益	10,960	2,746	395	14,101	92	14,193

前2Qセグメント概要

(単位：百万円)

	ディスカウントストア事業	総合スーパー事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	消去/全社	連結
外部売上高	211,439	30,178	8,040	1,041	250,698	—	250,698
内部取引等	194	3	1,205	441	1,843	(1,843)	—
計	211,633	30,181	9,245	1,482	252,541	(1,843)	250,698
営業利益	9,212	▲390	2,269	203	11,294	▲193	11,101

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。13
Don Quijote Co., Ltd. 2Q results of FY2011.

2Q累計セグメント情報 (法人別)

天候不順に悩まされたドイツを除き、
グループ小売各社の収益力はますます改善し、長崎屋も黒字転換！！

当2Q会社別概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋	DQ USA ※	その他	消去/全社	連結
売上高	177,938	9,542	59,601	7,840	8,860	(8,300)	255,481
営業利益	11,409	529	151	344	1,514	246	14,193
総資産	299,013	23,147	57,491	9,616	37,670	(93,981)	332,956
純資産	114,230	17,597	28,452	8,638	1,684	(49,609)	120,992

前2Q会社別概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋	DQ USA ※	その他	消去/全社	連結
売上高	169,116	10,781	60,331	8,458	8,103	(6,091)	250,698
営業利益	9,022	968	▲1,083	279	1,868	(47)	11,101
総資産	309,691	20,644	67,426	9,934	30,101	(95,244)	342,552
純資産	91,586	16,641	30,375	8,813	2,403	(54,219)	95,599

※ 当期為替レート (PL：\$1=¥88.32 BS：\$1=¥84.53) 前期為替レート (PL：\$1=¥94.92 BS：\$1=¥90.82)
Don Quijote Co., Ltd. 2Q results of FY2011.

キャッシュフロー&設備投資の状況

(単位：百万円)

	当2Q	前2Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	38,911	42,040	▲3,129
営業活動CF	16,390	23,469	▲7,079
投資活動CF	▲13,293	▲17,450	4,157
財務活動CF	7,345	20,785	▲13,440
期中増減等	9,871	26,712	▲16,841
期末残高	48,782	68,752	▲19,970

2.設備投資の状況

設備投資額	15,380	10,207	5,173
キャッシュフロー [※]	12,857	10,828	2,029
差引	▲2,523	621	▲3,144

※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

キャッシュフロー

<営業CF>

▶税金等調整前純利益126億円に減価償却費46億円及び支払債務126億円が増加要因となる一方で、販売好調を背景にたな卸資産が増加したため、CF上は同107億円減少及び税金支払額38億円が減少要因となったことなどから、164億円の収入（前期比71億円減少）

<投資CF>

▶出店に伴う有形固定資産の取得130億円、同無形固定資産の取得26億円などにより、133億円の支出（同42億円減少）

<財務CF>

▶銀行調達による借り入れ及び社債発行の一方で、配当金支払額11億円などにより、73億円の収入（同134億円減少）

設備投資

▶当期に係る新規出店や業態転換以外に、次期以降の出店予定物件を獲得したことなどで154億円（DQ119億円、長崎屋17億円、ドイト15億円：ただし、敷金保証金回収などを考慮した純増加額は144億円）の支出。キャッシュフロー129億円獲得も25億円不足。

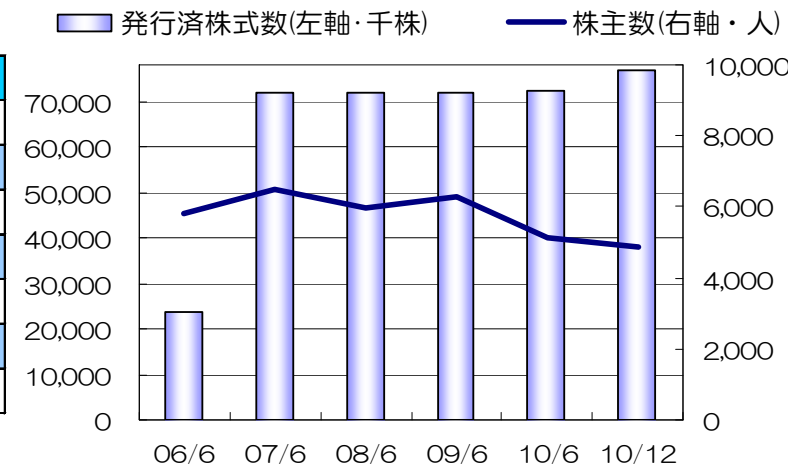
株式の状況

所有者別構成比推移

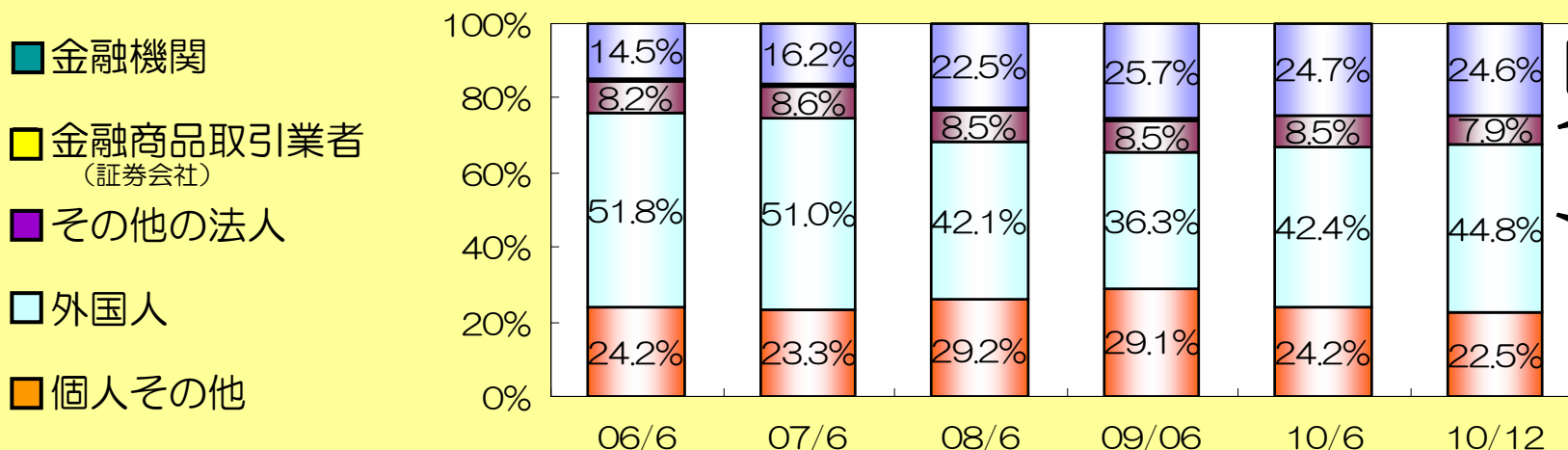
(単位：千株)

		前々期末		前期末		当2Q	
期末株主数		6,304人		5,114人		4,854人	
発行済株式数合計		72,022	100.0%	72,095	100.0%	76,852	100.0%
所有者別	金融機関	18,496	25.7%	17,792	24.7%	18,883	24.6%
	金融商品取引業者	287	0.4%	136	0.2%	145	0.2%
	その他の法人	6,111	8.5%	6,105	8.5%	6,101	7.9%
	外国人	26,136	36.3%	30,594	42.4%	34,414	44.8%
	個人その他	20,991	29.1%	17,468	24.2%	17,309	22.5%

(注) 1. 当中間期末株主数は、4,854人（前期末比260人減、前中間期末比938人減）となっております。
 2. 外国人持株比率は44.8%となっております。
 3. 自己株式（1,244株）は、個人その他に含んでおります。



所有者別持株構成比推移



総株主数は4,854人。
 外国人比率44.8%

2Q連結業績概況

【2010年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	130,766	100.0%	127,115	100.0%	102.8%
売上総利益	33,785	25.8%	31,948	25.1%	105.7%
販管費	26,473	20.2%	26,026	20.5%	101.7%
給与手当	8,710	6.7%	8,872	7.0%	98.2%
地代家賃	4,482	3.4%	4,357	3.4%	102.9%
支払手数料	3,174	2.4%	3,336	2.6%	95.1%
減価償却費	2,301	1.8%	2,151	1.7%	107.0%
その他	7,805	6.0%	7,309	5.8%	106.8%
営業利益	7,312	5.6%	5,922	4.7%	123.5%
経常利益	7,609	5.8%	5,978	4.7%	127.3%
当期純利益	4,464	3.4%	2,532	2.0%	176.3%
1株当たり純利益		59.25円		36.44円	162.6%

2Q事業別業績概況

【2010年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	125,742	96.2%	121,847	95.9%	103.2%
家電製品	15,587	11.9%	14,259	11.2%	109.3%
日用雑貨品	28,139	21.5%	26,288	20.7%	107.0%
食品	35,705	27.3%	35,173	27.7%	101.5%
時計・ファッション用品	28,921	22.1%	29,142	22.9%	99.2%
スポーツ・レジャー用品	7,181	5.5%	6,441	5.1%	111.5%
DIY用品	3,958	3.0%	4,035	3.2%	98.1%
海外	3,781	2.9%	4,160	3.3%	90.9%
その他商品	2,470	1.9%	2,350	1.9%	105.1%
テナント賃貸事業	3,961	3.0%	3,901	3.1%	101.5%
その他事業	1,063	0.8%	1,367	1.1%	77.8%
合計	130,766	100.0%	127,115	100.0%	102.9%

※当期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。なお、前期実績は当期基準に置き替えたものであります。

2Q出店状況

フォーマット別店舗数

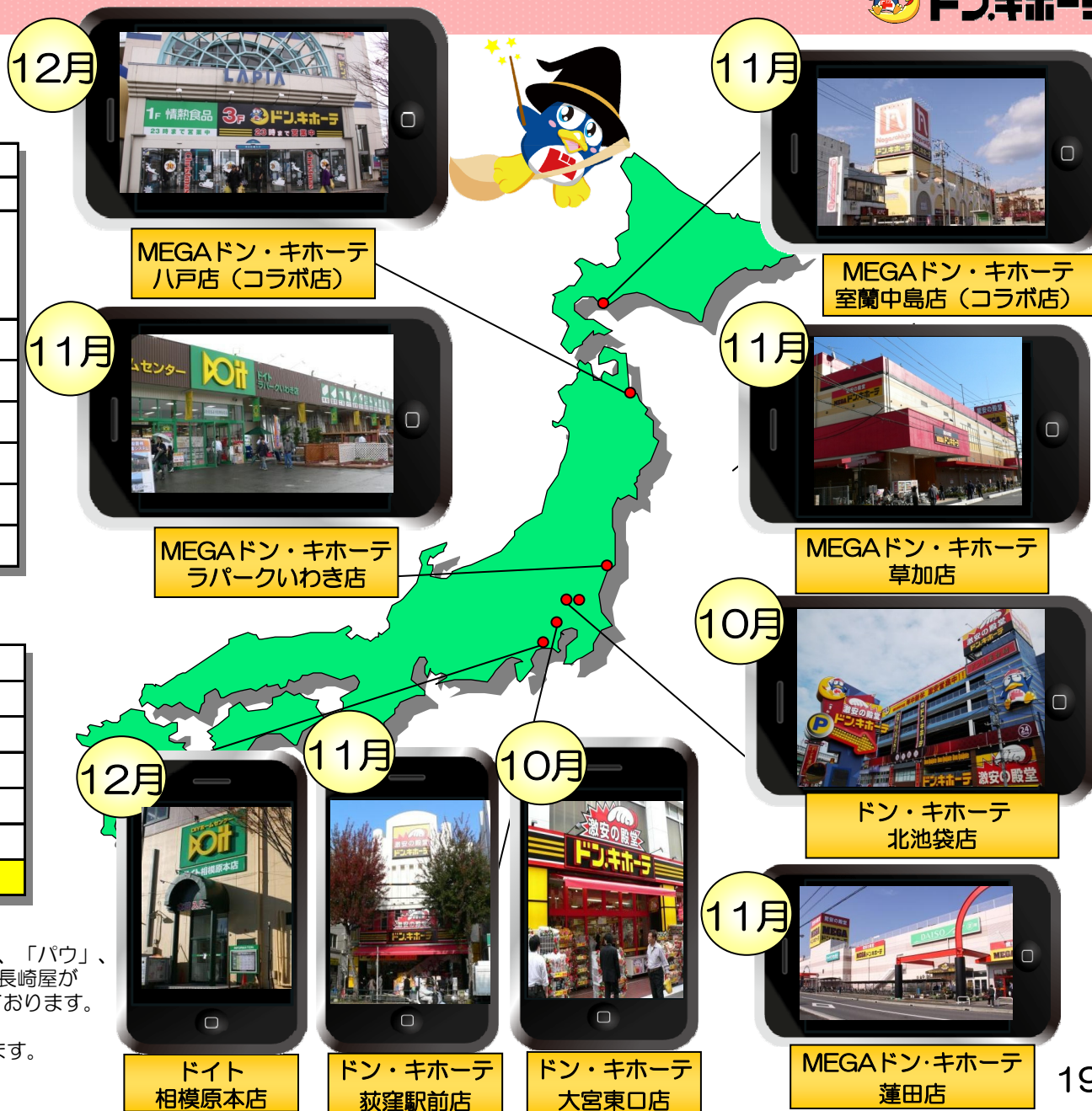
	2009年 6月末	2010年 6月末	2011年6月期	
			1Q	2Q
ドン・キホーテ	117	126	※1 155	157
パウ	23	23		
ピカソ	11	11		
MEGA	20	27	35※1	39
海外(ハワイ)	4	4	4	4
ドイト	11	12	13	15
長崎屋	31	17	13	10
ビッグワン	1	—	—	—
ダブルアール	—	—	1	1

法人別店舗数

ドン・キホーテ	150	162	161	164
長崎屋	46	42	42	42
ドイト	12	12	13	15
DQUSA	4	4	4	4
ビッグワン	6	—	—	—
ダブルアール	—	—	—	1
合計	218	220	221	226

※1. 当期より、店舗業態コンセプトが共通の「ドン・キホーテ」、「パウ」、「ピカソ」は、「ドン・キホーテ」店に集約表記しており、(株)長崎屋が運営する業態転換店は全て「MEGA」店として表記し直しております。

※2. 上記の他に、事業効率の見直しにより3店舗を閉鎖しております。



当期ハイライト

既存店における収益力強化策に注力し、商圈内シェア拡大を推進！！
当2Q累計期間の新規出店はDQ4店、MEGA1店、ドイト3店、WR1店の計9店。
さらに長崎屋のMEGA転換を6店実施。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	池袋東口駅前 等々力	大宮東口 荻窪駅前 草加		
長崎屋	苫小牧 宇都宮 二俣川	蓮田 室蘭中島 八戸		
ドイト	仙台若林	ラパークいわき 相模原		
WR	WR岸和田			

会員制ホールセールクラブ
の実験開始（1月4日付で閉鎖）

(株)フィデックへの
経営支援発表

CBの
繰上償還

ハイブリッド型
MEGA店開店

(株)フィデックの
増資引受
(連結子会社化)

SB発行予定

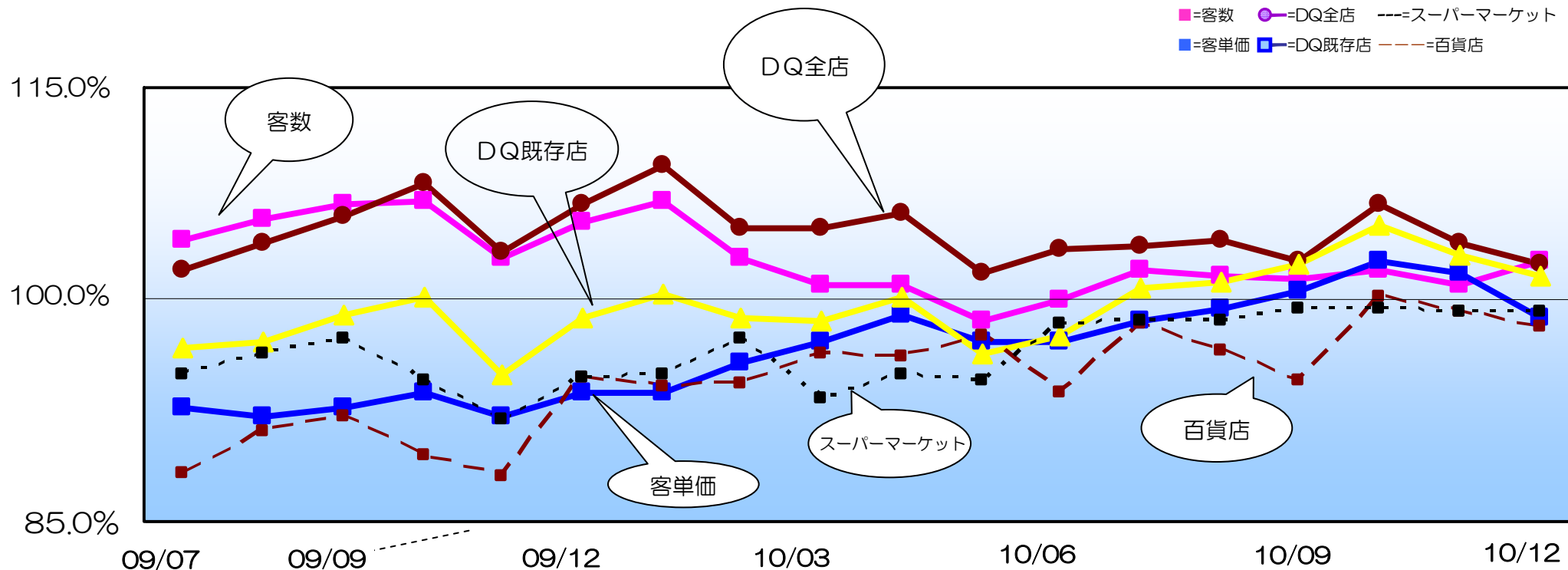
■ = 新店

■ = MEGA

■ = ドイト

■ = WR

月次販売高の状況 (DQ)



既存店	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	100.5%	95.2%	99.0%	100.8%	99.1%	98.8%	100.6%	96.5%	97.8%	101.2%	101.6%	102.8%	105.4%	103.5%	102.0%
・客数	107.2%	103.2%	105.6%	107.2%	103.2%	101.3%	101.4%	98.9%	100.4%	102.4%	101.9%	101.7%	102.4%	101.3%	103.1%
・客単価	93.8%	92.3%	93.8%	94.0%	96.0%	97.5%	99.2%	97.5%	97.4%	98.9%	99.7%	101.0%	103.0%	102.1%	99.0%
対象店舗数	145店	145店	146店	146店	146店	149店	149店	149店	149店	153店	153店	151店	153店	153店	155店

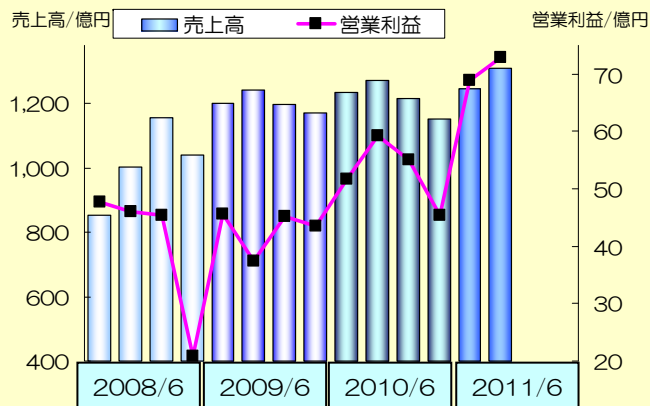
デフレ影響が残る中で「日用雑貨品」の競争力を高めて客数増を図る一方で、景況感に係る顧客心理の改善状況を先取りして「時計・ファッション用品」、「スポーツ・レジャー用品」部門を強化。

DQ既存店伸長率は2.7%増（客数2.2%増、客単価0.5%増）と予想を上回り安定した伸びを示す

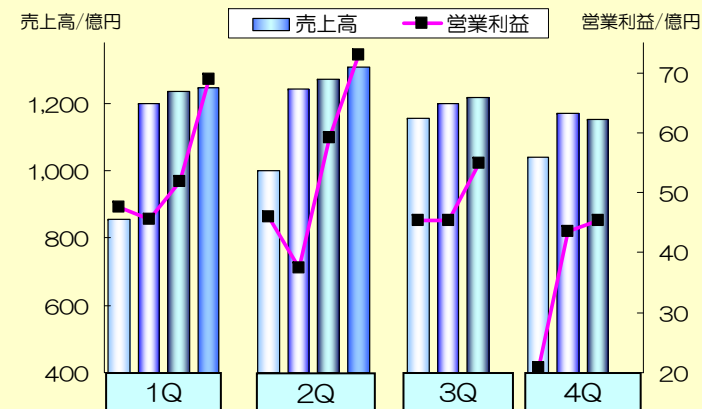


四半期業績推移

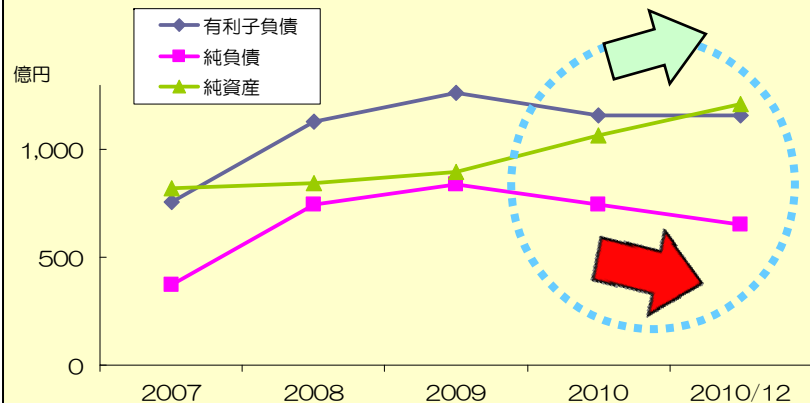
四半期業績推移の状況 (A)



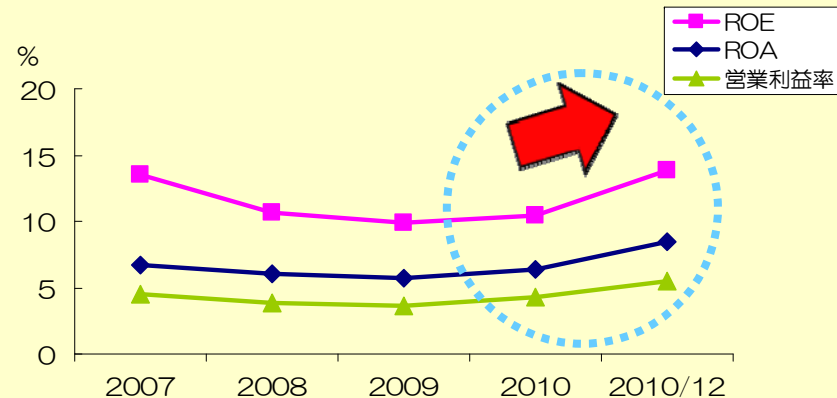
四半期業績推移の状況 (B)



純資産・純負債・有利子負債の状況



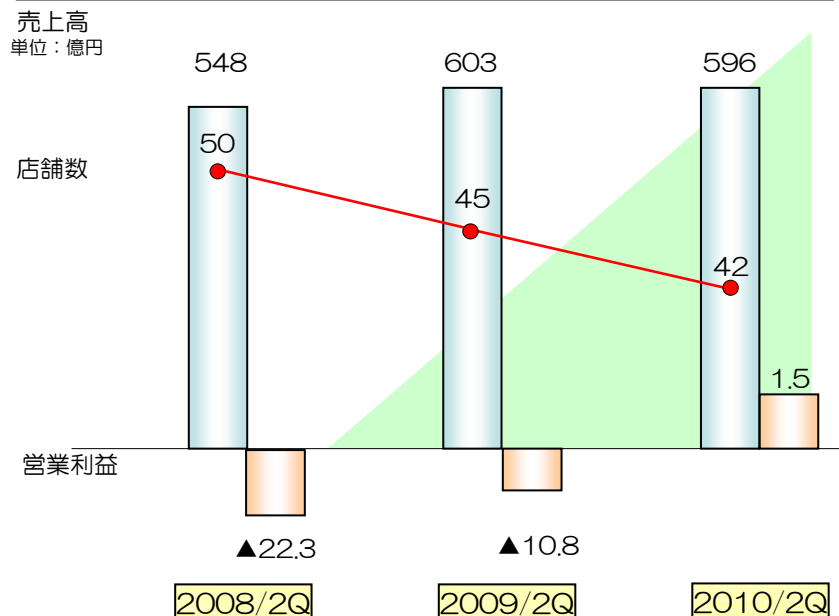
営業利益率・ROA・ROEの状況



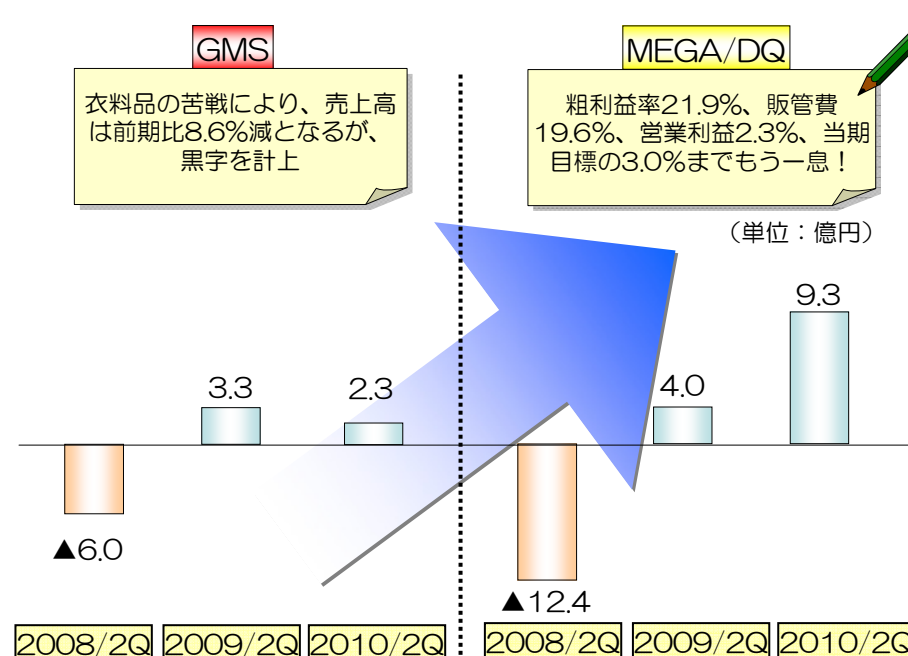
ROA = (営業利益 + 受取利息 - 支払利息) ÷ 総資産
 ROE = 純利益 ÷ 純資産

2007年10月に長崎屋を連結子会社化して以来、ファミリー向け総合DS「MEGAドン・キホーテ」を新業態として開発してまいりました。出店地域のお客さまの人気を獲得した上で、収益性・効率性の改善に注力し、ようやく通期黒字化を達成できる見通しとなりました。引き続き、12兆円を超える市場内シェアの拡大にまい進してまいります。

小売事業の業績推移



店舗営業利益の推移



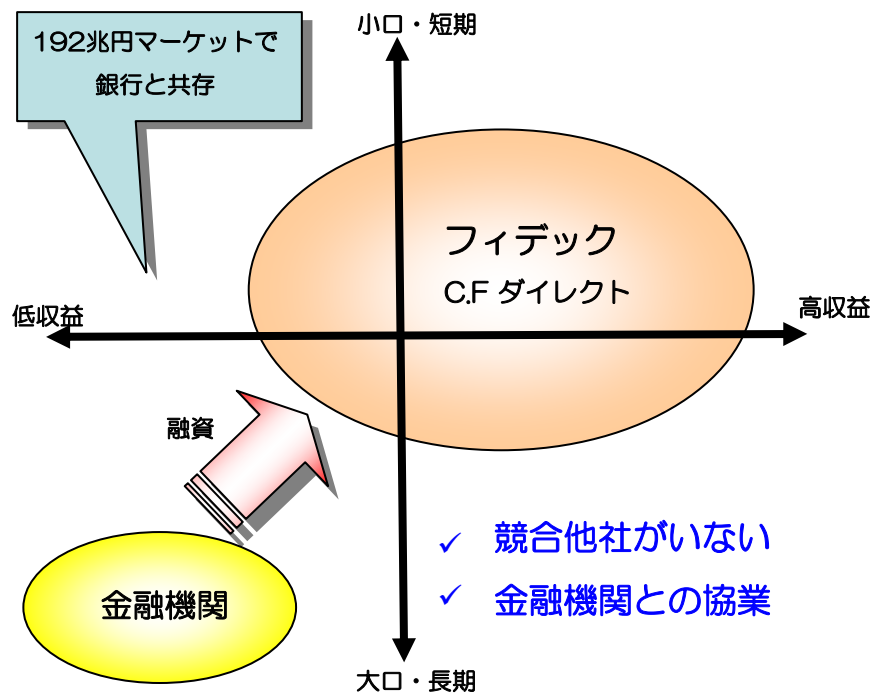
店舗数の推移

	2008/4	2009/4	2010/4	2011/1
営業店舗数 (店)	56	48	42	41
GMS長崎屋	56	35	20	9
MEGA/DQ	0	13	22	32
閉鎖	0	8	14	15

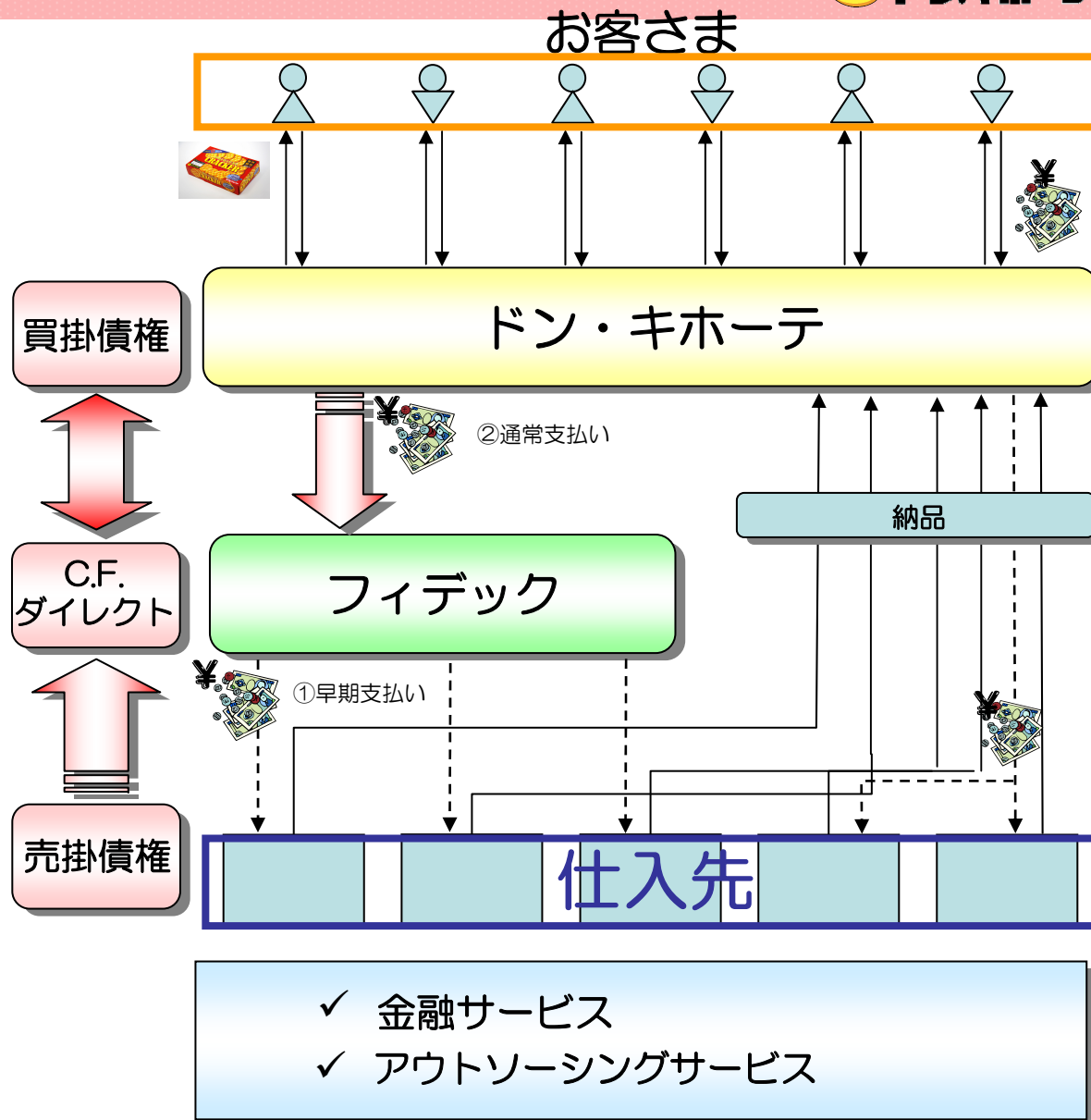
※1. 「GMS」、「MEGA/DQ」それぞれがフル稼働で営業活動を実施した期間の「店舗営業利益」の推移を表しております。

※2. 改装に伴う休業期間及び本社費用は含まれていないため、長崎屋合計の営業利益と一致していません。

フィデックビジネスモデル

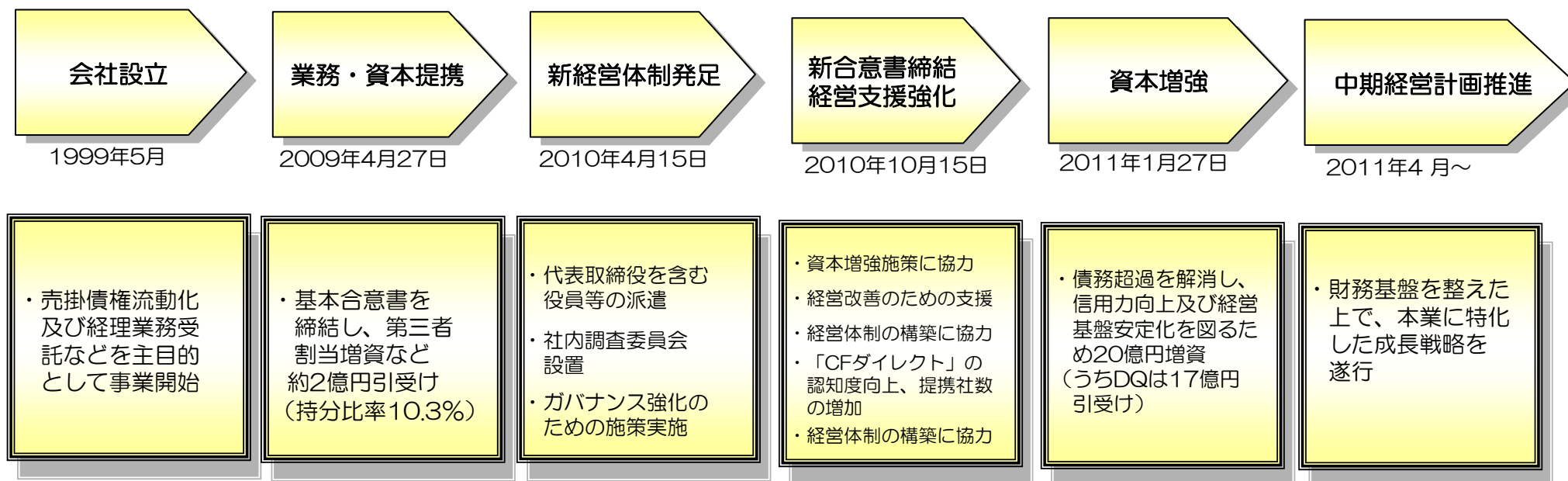


	参入障壁	フィデック	他社
技術	トラックレコード	○	×
	ノウハウ	○	×
信用	客観性	○	?
インフラ	キャパシティ	○	?
	365日24時間対応	○	?
	セキュリティレベル	○	?
価格	価格競争力	○	?



フィデックとの連携強化 Ver.2

(株)フィデック(8423)は、金融サービスとアウトソーシングサービスを融合した有望なビジネスモデルの「CFダイレクト事業」を主たる事業として行っている当社の関連会社(持分適用会社)であります。同社は、当期から連結子会社(B/S連結=11年3月31日現在、P/L連結=同年4月1日以降)となりますが、経営効率をいっそう改善する一方で、本業に特化した営業力強化を推し進めることにより、グループ収益力のさらなる拡大に貢献する存在にしてまいります。



<今後のビジネス拡大>

1. 「CFダイレクト」の認知度向上、提携社数の増加
2. バックオフィス機能のアウトソーシング化
3. ビジネス・ソリューションの提供

フィデック連結後のB/S予想

DQ現状（10年12月31日）	
現預金/507	買掛金/551
商 品/851	有利子負債/1,161
流動資産/1,477	負 債/2,120
固定資産/1,853	純資産/1,210
総資産/3330	

収益上昇をバネに財務体質の改善を進めてきたため
フィデック連結後も過度な負荷にならず。
収益面では連結利益増加に寄与予定。

✓増資（20億円）
✓シ・ローン締結（152億円）
（11年1月27日）

フィデック（10年12月31日）	
現預金/14	有利子負債/153
買取債権/117	負 債/159
流動資産/132	純資産/▲7
固定資産/20	
総資産/152	

（単位：億円）

予想B/S	
現預金/520	買掛金/500
買取債権/68	有利子負債/1,313
商 品/851	負 債/2,226
流動負債/1,560	純資産/1,214
固定資産/1,880	
総資産/3,440	

参 考

	DQ現状	FD連結後	10/6期	09/6期
有利子負債比率	34.9%	38.2%	38.5%	42.6%
純 負 債	654	793	745	842
自己資本比率	35.9%	34.7%	34.9%	29.9%
純 資 産	1,210	1,214	1,068	900

当期の施策と個別業績予想

お客さま満足を最大化するため、付加価値商品の販売促進に注力。

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営に注力
2. 営業方針：個店毎の商圈内対応力を強化し、既存店の収益力を拡大
多店舗化に向けたMEGA業態の収益基盤を確立
訪日外国人の取り込み強化、「Visit Donki! 2011」キャンペーン開始
3. 商品戦略：定番商品の徹底したEDLPの推進
PB「情熱価格」ラインナップの拡充（新機能・こだわり商品など）
お客さま購入金額向上策の推進
4. 店舗戦略：設備投資額300億円
新規出店15店（閉鎖5店（うち2店は業態変更））
長崎屋からMEGAへの転換9店＋再改装数店
DQ既存店の予想（3～4Q）0.3%増、（通期）1.5%増
5. 財務戦略：1年内返済予定借入金及び同社債償還資金はデットファイナンスにより調達予定
バランスシートの改善と資金効率の向上



<DQ個別業績予想>

2Q業績の進捗状況から、8月18日に公表した以下の業績予想を修正します。

（単位：百万円）

	修正予想			当初予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	343,000	100.0%	105.0%	338,000	100.0%	326,708	100.0%
営業利益	19,500	5.7%	113.3%	17,500	5.2%	17,210	5.3%
経常利益	18,800	5.5%	111.4%	16,800	5.0%	16,879	5.2%
当期純利益	9,500	2.8%	126.2%	8,800	2.6%	7,528	2.3%
1株当たり純利益	123.61円	—	114.1%	114.54円	—	108.34円	—

※業績予想は、資産除去債務に関する会計基準の適用による影響を反映しております。
Don Quijote Co., Ltd. 2Q results of FY2011.

通期の連結業績予想

(単位：百万円)

通期予想を
上方修正!

	通期修正予想			当初予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	500,000	100.0%	102.5%	510,000	100.0%	487,571	100.0%
売上総利益	128,000	25.6%	103.6%	130,000	25.5%	123,506	25.3%
販管費	103,500	20.7%	101.0%	107,000	21.0%	102,439	21.0%
営業利益	24,500	4.9%	116.3%	23,000	4.5%	21,067	4.3%
経常利益	23,500	4.7%	111.3%	22,000	4.3%	21,109	4.3%
当期純利益	12,500	2.5%	122.1%	11,600	2.3%	10,238	2.1%
1株当たり純利益	162.65円	—	110.4%	150.98円	—	147.35円	—
設備投資額	30,000	—	131.3%	20,000	—	22,849	—
減価償却費	10,000	2.0%	106.7%	10,000	2.0%	9,372	1.9%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、引き続き増収増益決算を目指します。



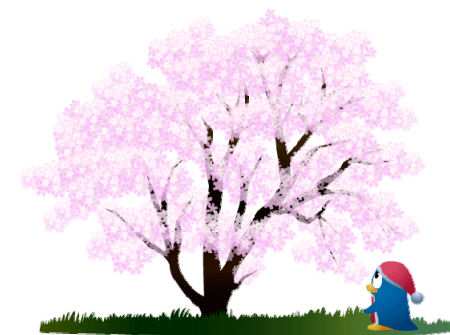
情熱価格 インフォメーション

情熱価格
ドンキホーテ

- 鍋セット
- おやつメーカー
- セラミック包丁
- スケール
- BIGポテト
- 大きめ野菜のカレー
- 梅干
- 梅酒
- 海苔
- コラーゲンヨーグルト
- 小物付衣装ケース
- つけまつげ
- 老眼鏡
- 美容液シリーズ
- テレビ
- LED電球
- マッサージチェア
- グンゼ下着シリーズ
- グンゼ枕カバー
- グンゼ靴下8点

2010年7月~12月 P8ヒット商品番付表

横綱	ラバー歯ブラシふつろ
大関	単3形アルカリ乾電池4P
関脇	極氷
心結	抗菌紙軸綿棒
前頭	烏龍茶
同	ラバー歯ブラシかため
同	アツアツご飯
同	柿の種&ピーナッツ
同	3食やきそば
同	静岡茶葉茶園のかほり



本日はありがとうございました。



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ 経営企画部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第31期（2011年6月期）第3四半期決算発表（予定）

決算発表日：2011年5月9日（月）

説明会会場：東京証券取引所内 東証ホール（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社
ドン.キホーテ
Don Quijote Co.,Ltd.